

中村俊定文庫
文庫 18
472



世一小冊を作者と云ふは亦ありて拾ひ
得たり俳客乃感ふと解く事なり地
ふも其物少く世の為持行するに
よめた作者の心もわらむと云ふ
夷猶海一浪少く又謂て世に
撰集もよみ人あつても歌多し
さへハと言は人の心も少くも作者に



何故と申すて樂じまうらといふ根の合点
ゆめと見えたり連歌といふ事始りたり
より昔法小くひて今日世におは通信
のゆめと傳の辭小くひて信問にひても
波傳ゆめにはの舞とまゝあふへあふ
かへて古代なまひかへて小くひて
なまひとまゝは傳のまゝひて
けむに答へて初らまの河のへん
傳とまゝとまゝひてりて言まひて
おのり連歌にいり私法と先傳と
信問今日通問の詞と媚ひ流るる
伝ふいふおへりて言と傳と
多し世のまを傳まうらと云
張る人と命とらと云初らと
ひのま前く人ばま前と云又人とは
只業と云へて地と深く地業と云

棟とよき城はひのちあり常世の通祿なる
ゆへ天下の人を驚かす曆ふも若くし
田疇ぐくもくくしまたも信より
信より能くや如奇き歌とて用とて
昔人とて例に治の橋やもあは乃
あは乃かひもあは乃かひもあは乃
あは乃かひもあは乃かひもあは乃
あは乃かひもあは乃かひもあは乃
あは乃かひもあは乃かひもあは乃

いよばの早あひもあは乃かひもあは乃
能くハ連歌ハ能くよの句詠りてはよ
度め流るるハ日一あは乃かひもあは乃
しぬのころの能くよの句詠りてはよ
しぬのころの能くよの句詠りてはよ
しぬのころの能くよの句詠りてはよ
しぬのころの能くよの句詠りてはよ
しぬのころの能くよの句詠りてはよ
しぬのころの能くよの句詠りてはよ
しぬのころの能くよの句詠りてはよ

破戒しつゝおろろやー野老を昔池と性
うー蜜を其さと性う作酒上作と去り
こやひらり作みあふこく中老と其くせん
きるふー其と娘り口昔池作酒と持て
其さき奇ー遊めよきうーそよひ作酒と
已酒こそ古き鞋のめく捨りといふや
捨りいふかへまかひてそ古鞋とあめ
らむこえ昔ー古鞋下執心のらるるあかり
まりとあて悪声は出さうとやいふあま
さ、路系恥るー

○あふしよ酒と昔く本句といひ理あんと
昔系始の十七字とあふくと唱あふひ万葉
八和歌はくさしとゆるーあふこふひのみ
のよんほもちりひふかひあ酒者宮禁制
祢^ニ京^{キョウ}中^{チュウ}回^{クワイ}里^リ不^フ得^{トク}集^{シツ}宴^{エン}但^タ親^{シン}々^々一^{イチ}二^ニ飲^{キン}
樂^{ラク}聽^{テイ}許^コ者^{シャ}縁^{エン}此^{コノ}和^{ワカ}人^{ヒト}作^{ツク}此^{コノ}發^{ハツ}句^ク也^{ナリ}とあり

ありとほつと上のうきくへもたつていふ
りかり上のうきとありとくひちり古代こゝ
斯のめーとくはあや

順徳院おはせ御抄もありとせせのうき
ありとせ 御作とくは世己に五百七十年
小作とくは今世出のめ地ありとく
新説と信しく改免用あり人ありとく
省く知るる

○ありとほつと上のうきくへもたつていふ
りかり上のうきとありとくひちり古代こゝ
斯のめーとくはあや
順徳院おはせ御抄もありとせせのうき
ありとせ 御作とくは世己に五百七十年
小作とくは今世出のめ地ありとく
新説と信しく改免用あり人ありとく
省く知るる

押さくはを理とらむも解さくは理よ
依くまは法とあり記なくまは法と
ま國よは法とま法よはひとま法よは
ま法よは理と拍と但まは
連さのまは作さくはまは
まは法よは法よはまは作さくは
まはまはまはまはまはまはまは
亦右小同

○又韻字留とらむまはまはまは
まはまはまはまはまはまはまは
留す或は月の山の春のねのまはまは
まはまはまはまはまはまはまは
一切乃文字韻字なまはまはまは
まはまはまはまはまはまはまは
あまはまはまはまはまはまはまは

名をいへば字留といはば名をいへば
字や韻字留といはば名がぬるり明
くは韻字留といはば字をいへば
名目と韻の字をいへば

○小松しく触順芭蕉翁活の一条秋風を
越風や二山の清とてふ秋風をいへば
一向只越の風と誦るるやとては秋風の
ありしなるをいへば

とていふは成り秋風やといはば秋風の
よふよふ秋の夕の光と誦るるやとて秋
風をいへば
とていふは成り秋風やといはば秋風の
よふよふ秋の夕の光と誦るるやとて秋
風をいへば
とていふは成り秋風やといはば秋風の
よふよふ秋の夕の光と誦るるやとて秋
風をいへば

能順さくは心付く実たりりらむ
をく過て改く心あして家くまむるに
はけし矢社の侍とてるよはあまのこ
とくゆしをまきとのこまそくくゆ
なりつかりにみりま

○能得あり能く何くかの事と後七
よむかぬよまふ守備の所くまのむ
と清まり昔らぬもあふ高き成のふ

能く心あふ守とては後のみくして
まらに着い守のふまの入り成
さくは守備の守ふとく俗ふし相後のお
能得の事くはては守とせんか
まくは古人の例にむあは吾曹は
さくは其の角流くあふとて
あはむ松とけぬの條くまき
風はくはむまのむと婦さ

今も路もなほさして時友とほりりて
ぬの海もさくらもさかすのほのさか
なると能くはにけぬとくわゆるの路に
くぬ人のあへたはなほ一目にほるる
あし

万葉集十卷雜歌卷歌人麻呂七首の内
けいさくもあせりてさかすの路に
あしをさかすのほのさかす

いさゝかさかすのほのさかす
あしをさかすのほのさかす
七つあふまふ合もさかすのほのさかす
さかすのほのさかすのほのさかす
古代のあし又さかす
万葉集八

あしをさかすのほのさかす
さかすのほのさかすのほのさかす
家持


ふた月さうふあしーいんらぶら
あーちりのあし風のまなく 池
是てとら

○芭蕉仙傳のよと人にいふて傳いし
きやふあふらふこ信法もは話とふと
とらひー後二十五ヶ条とりあふさ集
是はさくい成ー二十五ヶ条令く芭蕉の
作ふあしと人の信法もは混雜や
はす許六しとさり具眼の仙傳め
そとあふらふらふら芭蕉とら言は
ひりもあふ

○仙傳のよと人にいふて傳いし
きやふあふらふこ信法もは話とふと
とらひー後二十五ヶ条とりあふさ集
是はさくい成ー二十五ヶ条令く芭蕉の
作ふあしと人の信法もは混雜や
はす許六しとさり具眼の仙傳め
そとあふらふらふら芭蕉とら言は
ひりもあふ

連能きぬのいふは畫盤上系翰としく
百乃養母遊ふ人のくしむて能活よ
張し寸多しく能活きる人西カまはる者
を記すのいふは下りての能活人皆斯
の如くしむる様をいふも愚ふ念のつた
あやしくはにきりてのいふはさる
別行能きぬのいふは下りての能活人皆
さる人のいふは下りての能活人皆
かの行方能きぬのいふは下りての能活人皆
あやしくしむる様をいふも愚ふ念のつた
あやしくはにきりてのいふはさる
別行能きぬのいふは下りての能活人皆
さる人のいふは下りての能活人皆

○は畫能活きぬのいふは下りての能活人皆
あやしくしむる様をいふも愚ふ念のつた
あやしくはにきりてのいふはさる
別行能きぬのいふは下りての能活人皆
さる人のいふは下りての能活人皆

易にそきてかゝるも古に語られ今に
前蘇小室りくる中と書みて禁ずるゆゑ道
有り正治なり今にけりかたありと云へ
○柙和奇のよき世への 帝に詔應有て
和奇能風俾洞ひ定り上古の風小書る
りりあ也と云へりしり連奇といふ也
始り又能語ハ連奇の中より起りり是
古と云へるに道と書みたるにありり
和奇と云連奇ハ道と云へりりりりり
昔小書りりりりりりりりりりりりり
能ひしはと云へりりりりりりりりりり
忌すり今  道と云へりりりりりりりりりり
能語と混新しと云へりりりりりりりり
却て能語ハ連奇の言となりりりりりり
始りりりりりりりりりりりりりりりり
疑りりりりりりりりりりりりりりりり

七毛詩ハ多クも先カ今月花と詠一贈
昔唱れ多ク意と出ハ直作のまじり
今吾朝の三十二字相付一和洋の目信人
惜お等一萬葉毛詩ハそのまじり

○花月一取備とやうりおとく後まじり
およか一と返言の中にもこころまじり
古一の例まじり或は古人の例ハ
あしととくしとくも一とくおとく

能諧の二字にたふれとらふ川とせらるハ
しつまの古人の例や一能諧の二字万葉集
アもとてなり一此例や一なり一こ
此字の初はれはるハこのふとくはるの
人と欺き一矛楯と鷹とや一しんじ

○之とく云秋月ハ秋月ハのてあくのぬれハ
はるりのゆさあし一とく色葉の掬とる
實目乃コまとくやうり一情りハあしこふ

二二二
二二二

下巻十二丁に...の
歌ハ是と...
もかー...
くると...
かー...
あつ...
叶ひ...
つ...
を...
さ...
を...
能...
あり...
管...
撫...
頭...

120

十一

せしむる巻の始りも出て世上の俳諧を
者に對して云ぬみそしめかくし
強しと云ふは此の文の詞のまを予ハ
し言中とありて何人あるかよ
下と云ふはかたよと云ふは
さぬの如しと云ふはかたよと云ふは
罵はと云ふは神をのけりて河の
不遜小似ると云ふは

世一神の詠句は只和奇連字小なりと
しそよめと云ふはかたよと云ふは
ありて梅倒しの名もあやむ世の
俳諧の文育なるをいふと見てや
こよはしに俳諧の門をまてするは
こよはしに近はしと云ふは
そよ人立のりな人たは店先の物
なりと云ふは

この道は昔もあつてか門邊
あつたふきものにおかちやう
きく一休法師の門もくも縁も
あつた大冬なれりもあつた
ふかき門あつたふかき門
お信屋の平まうきく一人の
まんじくあま桂披くまの
一振の寸志斯の如く

羽子、散人

明和八年夏

書林

花洛 菱屋治兵衛

橋屋治兵衛

尾陽 菱屋久兵衛

